

子育てしやすい街を目指して！

Let's make a town where it is easy to raise children!

グループ名：チームともだっち
 学生氏名：友田翔， 関口耀司， 山田萌々香， 森美月
 指導教員：宮本悟
 中央大学 経済学部 宮本ゼミ

八王子市の人口を維持していくためには、若い世代の市外からの転入率をさらに増やすことが重要であると考えた。そのために、私たちは八王子の豊かな生活を活かして、子供たちの学習支援と自然を取り入れた教育を行うことを提案する。

キーワード：教育,子育て,転入率,自然

1. 課題設定の社会的背景

八王子市の「住民基本台帳 人口の増減」によると、八王子市の人口は2011年から横ばいになっており、今後次第に減少していくと考えられ、八王子市の転入者数も減少傾向にある。「年齢別 転入者数・転出者数」によると、子どもの移動数が多く、特に0-4歳の占める割合は、5-9歳、10-14歳よりも多い。このことから特に未就学児を持つ子持ち家庭が八王子市へ転入・転出する傾向が高いと考えられる。八王子市の人口を維持していくためには、若い世代の市外からの転入率をさらに増やすことが重要であると考えられる。

また、2023年の八王子市の市政世論調査によると、「ずっと住み続けたい」または「当分住み続けたい」と答えた人のうち、理由として「緑が多く自然に恵まれている」を選んだ人が64.6%と最も多かった。豊かな自然が八王子市の大きな魅力であると考えている人が多いことが分かる。

以上のことから、私たちは社会移動の活発な若い世代、特に子どもを持つ世帯に焦点を当て、八王子市に安定して住み続けてもらえるような、豊かな自然を生かした子育て支援政策を提案する。

2. 自然を取り入れた教育の利点

自然を取り入れた教育は、運動能力の向上に大いに寄与する。外での活動は、子どもたちが自由に体を動かす機会を提供し、バランス感覚や筋力の向上を促す。また、自然環境は五感を刺激し、視覚や聴覚、嗅覚を通じて多様な体験を提供する。たとえば、葉の色や風の音、花の香りを感じ取ることで、子どもたちは敏感で豊かな感受性を育むことができる。

さらに、自然の中での学びは、主体性を養う

場ともなる。子どもたちは自らの好奇心に基づいて探求し、自発的に行動することで、自信や自己肯定感を深める。自然体験を通じて問題解決能力も高まり、自分の考えを持つようになる。これらの要素は、将来の社会において必要不可欠な能力であり、自然を取り入れた教育が子どもたちに与える影響は計り知れない。このように、自然環境がもたらす教育的メリットは多岐にわたり、子どもの健全な成長を支える重要な要素となる。

3. 子育て支援政策の提案

私たちは旧児童館である、はちびバ（子ども・若者育成支援センター）や学童保育施設などを利用して、大学や大学生が連携をして休日や長期休みを中心に子供の遊びや学習の場を設けることを提案する。私たちは学童保育施設やはちびバに子供を集め、そこで学校に通う子供たちの学習の支援を行い、子供たちの学習習慣の確立を目指したい。また、学校や勉強に関する相談事を大人より身近な存在である学生がサポートする形で、子供たちの生活支援を行うことを柱としている。また、同時に八王子市が誇る豊かな自然とのふれあいの機会を提供したいと考える。例えば、親子で参加できる高尾山へのハイキングや浅川での生き物や植物とのふれあい体験などを取り入れることができる。自然とのふれあいにより、子供たちの想像力の養いや、主体性の向上だけではなく、幅広い年齢の子供たちを受け入れることで、子供たちにとって社会で役立つ異年齢コミュニケーションの場となることも期待できる。

4. 自然を生かした子育て政策の前例

長野県佐久穂町は異年齢の子と交流を重視

した日本初のイエナプランスクール（子供自身で時間割をプログラムするなどの教育法）を取り入れている。佐久穂町では自然を利用し本格的な野菜や果物生育や緑の環境調査として昆虫観察など、実際に五感で体感・体験する学びが取り入れられている。このような子育て教育、支援により、総務省によると2020年度に転入率2.40%を記録している。長野県の2020年度の転入率は1.43%であり、県内では高い転入率である。さらに、一般的に都市部の転入率が高くなり、地方は低くなる傾向がある中で、長野県佐久穂町は地方でありながら高い転入率であると考えられる。他にも神奈川県横浜市都筑区「もあなキッズ自然楽校」では1年中平日午前中は外に出掛け、自然の移り変わりを五感で感じている。3歳児以降は週に2回終日外で過ごし、外で食事をするなど、多くの時間自然と共に過ごす政策を行っている。このような政策により、横浜市HPによると2024年度に転入率4.28%を記録している。日本全国の転入率の平均である2-3%よりも高い転入率である。このことから私たちは自然を取り入れた教育の提供を提案したい。

5. 結論

私たちは八王子の豊かな生活を活かして若い世代の市外からの転入率をさらに増やすために、はちびバ（子ども・若者育成支援センター）や学童保育施設を利用して、子供たちの学習支援と自然を取り入れた教育を行うことを提案したい。児童・保育施設と連携し、多くの人に利用してもらえる学習支援や自然とのふれあいの機会を提供したいと考える。自然を取り入れた教育は多くの利点があり、自然を取り入れた教育政策をとっている自治体は高い転入率を記録していることから、私たちの提案は実際に若い世代の転入率をさらに増やすことにつながると考える。

6. 参考文献

・八王子市(2024)「住民基本台帳 人口の増減」
<https://www.city.hachioji.tokyo.jp/shisei/002/006/006/p005936.html>
 2024年10月1日閲覧
 ・八王子市(2020)「年齢別 転入・転出者数」
https://www.city.hachioji.tokyo.jp/contents/open/002/p030605_d/fil/008.xlsx
 2024年10月1日閲覧
 ・八王子市(2023)第55回 令和5年(2023年)市政世論調査」

<https://www.city.hachioji.tokyo.jp/shisei/001/002/005/004/p033260.html>

2024年10月1日閲覧

・八王子市(2020)「ビジョン すくすくてくてく八王子」

https://www.city.hachioji.tokyo.jp/kurashi/kosodate/011/001/p026425_d/fil/kowakekeikaku.pdf

2024年10月1日閲覧

・環境省(2020)「幼児期における環境教育体験活動事例集」

<https://www.env.go.jp/content/900499178.pdf>

2024年10月1日閲覧

・学校法人 茂来学園 大日向小学校・大日向中学校 しなのイエナプランスクール

<https://www.jenaplanschool.ac.jp/>

2024年9月6日閲覧

・総務省 「統計ダッシュボード」

<https://dashboard.e-stat.go.jp/>

2024年10月2日閲覧

・横浜市

[横浜市 - トップページ \(yokohama.lg.jp\)](https://www.yokohama.lg.jp/)

2024年10月1日閲覧

・横浜市 人口の動き

[24_hyo06.xlsx \(live.com\)](https://www.yokohama.lg.jp/24_hyo06.xlsx)

2024年10月1日閲覧

・横浜市 都筑区統計要覧

◇目次、都筑区の主なデータ指標、人口(区別、推移、増加数、出生数、町丁別) [横浜市都筑区 \(yokohama.lg.jp\)](https://www.yokohama.lg.jp/)

2024年10月1日閲覧

・瀧直也(2018)「70日間の長期寄宿体験が児童の生きる力に及ぼす影響」『青少年教育振興機構青少年教育研究センター紀要』 第6号